

**和泉グリーンプロジェクト
平成 23 年度活動報告書**

(平成 23 年 4 月 1 日から平成 24 年 3 月 31 日まで)

実施方針と成果

本年度の和泉グリーンプロジェクト（以下、単にG Pといいます。）の活動展開は、校庭芝生の維持管理活動を継続的かつ円滑に行うことを柱に、学校関係にとどまらず、広く地域の人と芝生を通じた結びつきを図ることを目的とした和泉グリーンコンサートを行いました。また、学校・家庭・地域との有機的な連携活動のため、内部体制の強化や広報活動の充実化を図りました。さらに、これら例年の活動に加えて、平成 23（2011）年は校庭を芝生化して 10 周年という節目にあたる年でしたので、お祝いを兼ねて 10 周年記念イベントを行いました。

（1）10 周年記念イベント

10 周年記念イベントは、10 周年をお祝いする児童集会（平成 23 年 6 月 11 日）とチャリティバザー（縁日）（8 月 27 日）に分けて行いました。

児童集会では、児童自らが、野崎元校長、野本前校長及びG Pメンバーの 3 人（含む卒業生）へのインタビュー企画を考え、その進行も担当しました。インタビューによって、児童は勿論、その保護者の方にも、芝生化当時の思い出や芝生への思いなど貴重な話を伝えることができました。当日はあいにくの雨天のため、芝生を利用した集会を行うことができずに体育館で行うことになりました。しかし、そのことがかえって、芝生の上で遊べることや「芝生があたりまえのようにあること」のありがたさを実感させることとなりました。

チャリティバザーは、小学校、P T A 及び学校支援本部並びにG Pの協働のもと、紙芝居、縁日及びバザーが行われ、大盛況でした。そこで得られた収益金は、杉並区を通じて震災地へ義援金として寄付しました。

（2）芝生維持管理活動

平成 23 年 4 月から同年 11 月まで、毎週土曜日にG Pの管理運営委員、企画・調査委員及び芝生係を中心とした芝刈りを計 19 回行い、延 380 名（1 回あたり平均約 20 名）の参加者がありました。

同年 5 月から 6 月にかけては、①新 1 年生を中心に多くの会員にG Pの活動への興味をもってもらうこと、及び②芝生維持管理活動の技術指導を重点的に行うことを目的として「エンジョイ！G Pキャンペーン」を企画・実施しました。これは週ごとに優先的に芝刈りを行う学年を決め、該当学年の児童・保護者を中心に芝刈りを体験してもらうものです。

また、5 月 21 日の学校公開日において、学校の協力の下授業の一環としてG Pメンバーが芝生・芝刈りの知識・技術について、2 年生向けに授業を行いました。さらに、芝生養生期間中の 10 月 11 日の環境タイムにおいて、「ペットボトル芝生の作り方」の授業を担当しました。

(2) 和泉グリーンコンサートの実施

平成 23 年 8 月 27 日に第 5 回和泉グリーンコンサートを開催しました。今回は、女性デュオ（ヴァイオリン、キーボード&ボーカル）花乃ルサカさん、アコーディオン奏者大塚雄一さん及びギター&ボーカル高橋遼さんを迎えました。ヴァイオリン、アコーディオン、ギターという他ではまずお目にかかれない異色のコラボレーションも楽しむことができました。

今回は、夏場の電力事情等を考慮し、開演時間を例年より早い 16:15 としました。広報「すぎなみ」による告知や永福町駅が目立つ場所に大きなポスターの貼付を行い、児童・保護者をはじめ、地域の人など、一昨年よりやや少な目でしたが、約 380 人の来場がありました。

昼間の開催という去年までと異なった環境のもとで新たな発見や可能性を見出すことができた反面、開催時間の変更の告知方法やペットボトル灯籠を十分に使えない等の課題も残しました。

(3) ペットボトル芝生コンテスト

芝刈りをしない冬場の時期（平成 24 年 1 月～同年 3 月）においても、芝生維持管理活動への継続的参加の契機としてもらうため及び芝生育成技術の向上のため、ペットボトル芝生コンテストを育成部門とディスプレイ部門において開催しました。

育成部門は、会員にペットボトルで芝生を育ててもらい、その育成結果（育成状況の観察記録の充実した人も含め）をコンテスト形式で表彰するものです。他方ディスプレイ部門は、自らが芝生した芝生を使いさえすれば、他の植物と組み合わせたり、好きな形に芝生を整えて植えたり、容器をデコレーションしたりと、自由な発想で芝生を育ててその獨創性を表彰しようとするものです。昨年とほぼ同様の 60 組（両部門合計）の参加申し込みがありました。

しかし、今年の冬は寒さが厳しかったせいか、多くの方が育成に失敗して育成を断念せざるを得なくなり、育成部門のコンテストが成立しなかったのは残念でした。他方、ディスプレイ部門は昨年に引き続き力作の出品が数多く寄せられました。

(4) 新泉・和泉地区中高一貫教育校設置へ向けた動きと G P としての取組み

小中一貫校における校庭芝生化に係る論点をとりまとめ、G P としての意見を区に上申しました。その働きかけも契機となり、小中一貫校設置準備協議会中に、専門部会としての校庭部会が設置されました。同部会には G P 会員も部会委員として参加して、小中一貫校の芝生化実現に向けての活発な意見交換が行われています。他方で、「緑化等を通して、学校・家庭・地域の交流に関する活動」等（G P 会則第 3 条参照）を行うボランティア団

体としてのG Pの小中学校一貫校におけるあり方や役割についても、今後論点整理を行いつつ、さらに検討をすすめていきたいと思えます。

(5) 「芝生係」による関係者間（G P会員相互間及び学校・家庭・地域）の情報交換・連携の推進

「芝生係」に選任されたG P会員に、毎週の芝刈りへのサポート並びにグリーンコンサートの事前準備及び当日のサポート活動等を担当してもらいました。「芝生係」制度は、芝生係が各家庭とG Pとの連絡・連携や、学年を代表する形でG P活動へ関与することにより、関係者間の情報交換・連携に大きく貢献しています。

今後は、「芝生係」制度のより一層の充実を図るために、位置づけなど制度的な課題を検討し、今まで以上の連携が図れるよう改善・改革をすすめていきます。

(6) 書籍「芝生でいこう」の販売

平成22年3月31日に出版した「芝生でいこう」を実書店、アマゾン及び出版元並びにG Pを通じて継続的に販売しました。在庫管理を継続して行わなければならないことから、適切な管理ができるよう在庫管理の方法等の見直しも行いました。

(7) 広報活動としてのホームページの充実及び新たな情報ツールの活用開始

よりわかりやすく、かつタイムリーな情報発信を行うため、ブログに加え、ツイッター、FaceBookによってもG P活動予定や日常の活動の様子を発信しました。また、ニコニコ動画を通じて、グリーンコンサートの実況をインターネット配信しました。